

科目名	行動分析学特講	担当者	オノ 小野 コウイチ 浩一	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>行動分析学はアメリカの心理学者 B. F. スキナー (1904-1990) によって創始された学問体系で、大きく 2 つの領域に分かれる。実験的行動分析学は動物や人間を対象とする実験研究に基づいて行動のメカニズム、働きについて研究し、応用行動分析学は、教育、臨床、福祉、産業など人間社会のさまざまな問題の解決に取り組んでいる。現在では、従来のオペラント条件づけやレスポナント条件づけの枠を超えて、環境や組織、社会システム全体の中で人間の行動を理解しようとする方向に進んでいる。</p> <p>そこで、「行動分析学特講」では、行動分析学の基礎的な理論と技法の習得に加えて、最新の研究成果や応用研究についての理解を深めることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>(1) 行動分析学の理論と技法について実証的データに基づいて理解するとともに、その理論や技法の背景となっている人間観や世界観について説明できること。</p> <p>(2) 行動分析学の臨床応用領域における実践方法を学び、社会的場面における行動技法活用の利点や問題点について説明できること。</p>		
学修方法	<p>基本教材を通読した上で、レポート課題のテーマに沿って、その他の参考文献、資料を参考にしながら問題点を整理し、レポートの構想をまとめる。</p> <p>ただし、レポートの内容は必ずしも当初の構想のとおりでなくてよい。文を作っていく過程で新しい考えや材料が見つかることも多いので、最終的に論旨が明解で読みやすく、かつ説得力のあるものを作成してほしい。</p>		
スケジュール	<p>前期：基本教材 1 のレポート課題 1・2 の草稿は 7 月末を目処に提出する (別々でもよい)。 いずれの課題も 9 月中旬までに最終稿を提出する。</p> <p>後期：基本教材 2 のレポート課題 1・2 の草稿は 11 月末を目処に提出する (別々でもよい)。 いずれの課題も 2017 年 12 月末までに最終稿を提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	90%	(1) レポートの構成と内容が課題に対応しているか。 (2) 教材の理解度 (3) 論旨が明解で読みやすく、かつ説得力のある文章であるか。
	平常評価	10%	受講姿勢 (担当者との円滑なやりとりなど)
履修者への要望	<p>教材を読んでよく理解するよう努めてください。ここでよく理解できた状態とは、教材の章や節の内容を、それを知らない他領域の心理学専攻学部卒業生がよく分かるように、説明できることを指します。</p> <p>テーマに沿い、かつ論点が明確で躍動感のあるレポートを望みます。</p> <p>レポートは長ければいいというものではありません。かといってあまり短いのも困ります。その課題を記述するのに必要最小限の長さということを意識して書いてください。</p> <p>レポートに受講者自身の考えを盛り込むことを歓迎しますが、その際は、自分の意見と他者の意見とが区別できるような書き方の工夫をしてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 小野浩一 教材名： 『行動の基礎』（培風館，2016年改訂版）ISBN:978-4-563-05247-8 2,600円＋税
	行動分析学と学習心理学の知見を実証的データに基づいてまとめた本である。内容は4つのパートからなり、第一部では徹底的行動主義を貫く行動分析学の考え方、人間観、世界観が分かりやすく述べられ、第二部と第三部ではヒトが備えている2つの行動、レスポナント行動とオペラント行動が様々な実験例とともに具体的に述べられ、第4部でオペラント行動研究のさらなる展開が紹介されている。
参考図書	実森正子・中島定彦『学習の心理』（サイエンス社，2000年）ISBN: 4-7819-0953-1 1,500円＋税 スキナー，B.F.（山形浩生訳）『自由と尊厳を超えて』（春風社，2013年） ISBN: 978-4-86110-341-4 2,381円＋税
履修上のポイント	本課題は「到達目標（1）」を実現するためのものである。基本教材である『行動の基礎』を中心に据え、参考書『学習の心理』をあわせて基本的な事柄を習得しよう。さらに、参考書『自由と尊厳を超えて』により、スキナー自身の言葉から行動分析学の人間、社会、文化についての考え方に親しむことができる。
レポート課題 1	「レスポナント行動」についてその概要を述べたのち、それが私たちの生活とどのように関わっているかについて考察せよ。
レポート課題 2	「オペラント行動」についてその概要を述べたのち、それが私たちの生活とどのように関わっているかについて考察せよ。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： レイモンド・G・ミルテンバーガー / 園田茂樹ほか訳 教材名： 『行動変容法入門』（二瓶社，2006年）ISBN:978-4-86108-025-8 3,600円＋税
	行動分析学の原理を実際の社会における問題の解決にどのように活かすことができるかを丁寧に解説した書である。応用に用いられる基本的行動原理を述べた後、「新しい行動を獲得する方法」、「望ましい行動を増やし、望ましくない行動を減らす方法」、およびその他の代表的な技法が具体例とともに分かりやすく述べられている。
参考図書	プライア，K.（河嶋孝・杉山尚子訳）『うまくやるための強化の原理』（二瓶社，1998年） ISBN:978-4-93-119955-2 1,400円＋税
履修上のポイント	この課題は「到達目標（2）」を実現するためのものである。参考図書『うまくやるための強化の原理』は、イルカのトレーナーであった著者が執筆した行動分析学の入門書で、基本教材とあわせて読むと理解が深まると思う。
レポート課題 1	問題行動を減らすために用いることができる方法について整理し、またそれらを適用する際の問題点について述べよ。
レポート課題 2	行動変容法における「刺激性制御」とはどのようなものであるかについて概要を述べ、それを適用する際の留意点について述べよ。